

全員協議会

平成23年11月25日、町議会では全議員で組織する全員協議会を開催し、鞍手町立病院経営形態検討委員会及び小中学校統合整備計画策定委員会のこれまでの検討結果と泉水地区の赤水対策について、町当局より説明を受けました。その内容について、質疑と応答を交えてお知らせします。

鞍手町立病院及び介護老人保健施設の経営形態

町立病院では、良質な医療の提供と経営の健全化を継続的に両立させるため、平成23年5月に医療や病院経営に関して精通している人や住民代表による外部経営検討委員会を設置しました。

質疑と応答

町立病院では、良質な医療の提供と経営の健全化を継続的に両立させるため、平成23年5月に医療や病院経営に関して精通している人や住民代表による外部経営検討委員会を設置しました。

問 地方独立行政法人化のメリットとデメリットは。
答 メリットは、経営の責任と権限が明白になるとともに、機動性・弾力性が向上し、多様な雇用形態や業務量に応じた人員配置、年俸制・業績給・資格手当等の独自の給与制度が可能になることです。デメリットは、移行に際し独自の会計システム

等の開発や不動産鑑定料が必要であり、評価委員会の設置や毎年度の評価事務に多大な時間と労力を要したり、争議権の行使があった場合には町民に迷惑を及ぼす可能性があることです。
また、約9億円の退職手当の積み立てや医師の給料の業績給化により人件費が増えることです。
問 旧宮本学園と同じようになることを危惧するが。
答 採算性を重視するあまり、不採算部門の切り捨てにつながらないかご心配とは思いますが、地方独立行政法人は公的サービスの提供を目的とした、町が100%出資する町の直営病院です。現在、町立病院が提供している医療サービスは、独立行政法人化後も何ら変わりません。



町立病院と介護老人保健施設

問 施設の建て替え時期の計画は。
答 建て替えは、現在地では不可能です。耐震化のこともあります。評価委員会が作成する中期目標に沿って病院側は中期計画を立て、新築移転等も盛り込まれてくるのではないかと思います。
問 赤字になった時の財政的な関わりはどうか。
答 自治体病院としては何ら変わっていません。

問 理事長に権限が集中するため、選任に当たった手続きを含めて、しっかりとしたものを出していただききたいが。
答 選任にあたっては、事業に関して高度な知識及び経験を有する者、事務及び事業を適正かつ効率的に運営することができると定められていますので、これに該当する人が理事長になります。
問 理事長と院長は別に置くのか。
答 まだ決定していませんが、理事長と院長を兼務しているところもあります。

命されます。先進地では医師が理事長を務めています。
方が2万円ほど高い状況です。来年度からの募集は独立行政法人職員としての採用試験をする予定ですので、初任給を引き上げた場合にどのようになるのか、現在も職員が不足していますので、何とも回答はできません。
問 ストライキ等があった場合には町民や患者さんに迷惑を及ぼすことはないか。
答 職員組合には争議権がありませんが、そうならないように三六協定等を結びますので、この中になんか話をお聞きしたいと聞かれます。患者さんや住民の方に迷惑がかかることは十分承知しています。
問 地方独立行政法人に移行する場合に、職員はいったん退職して再雇用という形になるのか。
答 公営企業から移行しますと、移行型独立行政法人ということで、退職はありませ

中学校統合協議の経過

国が示す基準では、1つの学校の学級数は12学級以上18学級以下を適正規模としています。本町にこれを満たす学校はありません。

このため、教育を重視した学校の再編について検討するため、鞍手町小中学校統合整備計画策定委員会を設置しました。

学校再編は、全町的な視点での検討が必要ですが、まずは鞍手北・鞍手南の両中学校の統合について検討してきました。

その結果、中学校の統



旧宮本学園跡地（正門から）

合は早急に行う必要があるとの結論が出されました。統合後の学校設置場所は、対等合併を条件に検討し、課題はあるものの、早い時期の統合を考へて、専門学校跡地を候補地としました。

質疑と応答

問 今後予想されるクラスの編成は。

答 現状は、南中学校は1年生が1学級、2年生が2学級、3年生が法的に1学級です。北中学校は、各学年3学級、全体で9学級です。統合して

も今の推移でいくと、平成31年までは12学級が続きます。それ以降は11学級、9学級と、20年後ぐらいには統合しても全校で9学級になります。

問 北中か南中にしなかつた理由は。

答 どちらかにすると吸収合併になるため、両校の位置を外して専門学校跡地の方がよいのではなにかという結論です。

問 2つの跡地の利用方法は検討しているのか。

答 北中、南中を使わないうということになれば、処分していくということになると思います。

問 買収や改築等の費用はどれくらいかかるのか。

答 新規に土地を取得して新校舎を建てると20億円近くかかり、専門学校を利用して校舎の増改築やプール、グラウンド、体育館を整備すると、10億円程度かかると思います。

問 まだまだ工夫の余地がある。もう少し厳密に検討してもらいたい。

答 今の専門学校が中学校として使い勝手が良く、機能的な校舎になるということが第1条件。次に、安全安心な通学路の整備や交通手段について課題が残っていますので、これがクリアできれば

ば専門学校跡地を候補地としてあげています。

問 教育的なことから考えれば、中学校よりも小学校の方が深刻だ。小中同時に答えを出していただきたい。

答 人生の中で一番多感な時期は中学です。

例えば、部活1つを取っても、現状では北中の部活は14ありますが、南中は団体競技に出る男子・女子を別にして、それを数えても6つしかありません。子どもたちは色々学びたい時期に選択肢がないのです。極端に言えば、3学級の学校になりませんでしたら、部活も2つしか持てません。野球と陸上だけということになつては、モチベーションを高めなければいけない時期にそういう教育ができないということは何だと思えます。

従って、中学校の統合を先ずやっていきたいという考えです。

泉水地区の赤水対策

泉水地区の赤水対策には、3箇所の湧水を処理する施設整備に約1ヘクタールの土地が必要で、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）からは泉水地区の一角と、じん芥処理施設組合が所有する土地で整備をしたいと申し入れがありました。

質疑と応答

問 住宅移転は、土地代・建物等をすべて補償費として町が受け取り、町で施工することになります。対象戸数は約20棟で40戸ほどあり、地元の役

問 近辺に民家があるが、十分な説明を行っているのか。

答 民家へはNEDOが協議に行き、概ね合意をいただいています。

問 処理施設ができた後は町に移管ということではなく、最終的にずっとNEDOが管理していくということになるのか。

答 現時点では移管の話はありません。もし移管という話であれば相当検討しないと簡単には受け取れません。



泉水地区の赤水疎水口